

令和4年度地域活性化活動助成事業 活動概要

「日本の心の歌を歌おう」

ミモザの会

代表 大川 幸枝

1 はじめに

次の二つ願いを込め、平成30年7月から始めている取組である。

- ① 美しい歌詞に日本の心が込められている童謡や唱歌を、次世代へと歌い継いでいきたい。
- ② 四世代が集い、音楽を通して温かく和やかな時を創り出し、地域ぐるみで子どもたちの成長を見つめていきたい。

2 活動の様子

- ・毎月第4土曜日 10:00～11:00
- ・対象は、乳幼児から高齢者までの地域住民
- ・参加者は、毎回20名程度（自由参加）

美しい日本のことばにふれ、子どもたちに日本の心を伝えたいという願いから、季節感が感じられる、美しい歌詞で紡がれた歌を選び、毎月、その時季にふさわしい曲を、みんなで歌ったり、CDを聴いて情景を思い浮かべながら、鑑賞したりしている。

参加者へは、毎回、その日に歌う歌詞とともに、この会への思いを綴った「ミモザの記」を配付し、会の終了後には、次回の案内とともに、その回のふり返りを「ミモザの記」に記し、参加者宛に郵送している。「ミモザの記」が、参加者の心をつなぐものになればと、毎月2回ずつの発行で、1月末現在で、70号になった。この便りが届くのを心待ちにしてくださっているのもありがたい。

今年度は、コロナの感染拡大がみられた8月は、感染防止のため休会とし、そのほかの月は開催することができた。12月には、「花咲く郷 祈りの家」で毎年恒例となっているクリスマスコンサートに、ミモザの会からも参加させていただき、弦楽器の音色を楽しんだ。

まだ、以前のようにのびのびと歌うことはできないが、それでも、音楽を愛好するメンバーが集まって、一緒に歌を歌うことを、心から楽しみにしてくださっている。参加者の中には高齢の方もいらっしゃるが、雨天であっても、厳しい寒波の日でも、欠かさず参加してくださるのが

ありがたい。

社会福祉協議会の職員である男性が毎回参加してくださり、曲にまつわるトークを交えながらピアノ演奏を聴かせてくださるのも、参加者の大きな楽しみとなっており、期待感が増してきている。

また、いろいろな本の紹介をしたり、ぬくもりのある絵本の読み聞かせをしたりするなど、内容を音楽に限定せず、参加者にとって豊かなひとときとなるようにと、工夫をしている。

3 活動の成果

会場から聞えてくるピアノの美しい音色に引き込まれるようにやってきた小学生もいるが、現在は、子どもの参加が少ないのが課題である。しかし、音楽をとおして交流できるこの会を楽しみにしてくださっている方々は多く、この会が、様々な人との出会いの場としても親しまれている。また、この会場が、以前、幼稚園舎であったことから、幼い日に通園していた懐かしさからやってくる人もいる。

以前参加していた子どもが中学生となって、部活の時間と重なるため来られなくなったり、この会を楽しみにして、自宅の庭に咲いたお花を摘んで、毎月持ってきてくださっていた高齢のかたが病気になって来られなくなったりという状況であるが、ぽつぽつと新しい方もやってきて、自由参加のこの会も、毎回20人前後で活動を続けている。月に一度の、わずか1時間の集いではあるけれども、元教会の会堂という特別な場で、音楽の好きな人が集まって、日常から切り取られたような心地になれる癒しのひとときを、これからも大切にしていきたいと思っている。

4 課題

活動を始めて5年半が経過した。当初の願いは、子育て世代の方に親子で参加していただき、子どもたちを囲んで、四世代での会話を楽しみたいというものであったので、できるだけそういう形に近づけていきたいと思い、各小学校で行われる就学時健診や一日入学での「子育てサロン」などの機会に、この会の紹介をして、参加の呼びかけを行っている。

ささやかな取組ではあるが、山口県教育会の助成をいただきながら、さまざまな方々のご支援やご協力のおかげで5年半もこの活動を継続することができていることがありがたい。今後も、地域の方に気軽に参加していただき、また参加してみたいと思っただけのような取組をしていきたい。